

(声を発しないものを愛する習性が私にはあって

声を発しないものを愛する習性が私にはあって

誰の記憶にも残らない一本の中くらいの

裏側に傷のある樹木のように

彼らがこちらを見もせずに

ただ歩いて横切っていくさまを

立ったまま見ているだけの日もあって

そのことが幸福だった

おそらく惑星が傾いだり

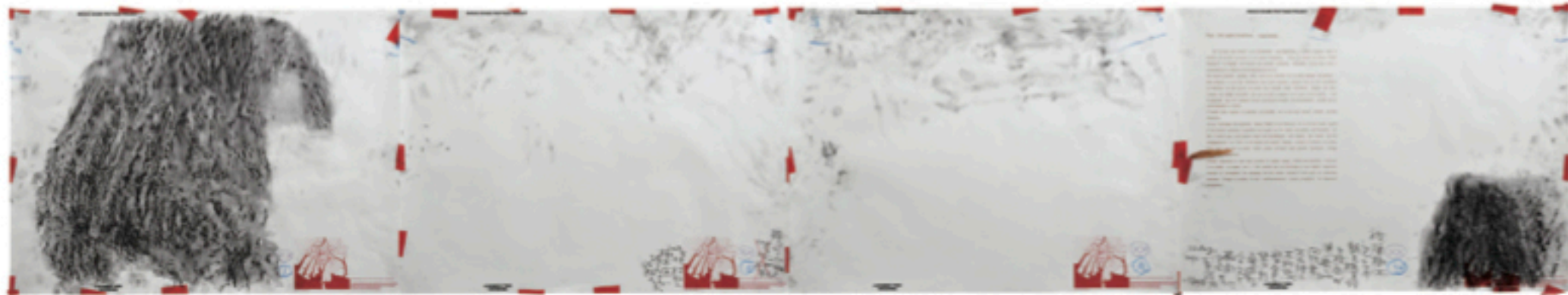
ひとつのなにかの世界が

消え去ってしまうときにまでも続くくらいの幸福が

裏側に傷のある中くらいのおかしな形に崩れそうな樹木を

支えていたのかもしれない

野木京子「ヒムル、割れた野原」より



被爆樹にふれて—シダレヤナギ(4連画) 鶴見橋東詰 2007年7月 樹木医 堀口 力さんにより枯死と診断 郷心地から1,700m フロッタージュ+セリグラフ 鉛筆+紙+テープ+葉 各55×75cm 2010